



学校が抱える課題(弱み)を 地域住民がフォロー!

平成27年12月の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の中で、「学校は、“チーム学校”の考え方の下、学校現場以外での様々な専門性を持つ地域の人々と効果的に連携しつつ、教員とこれらの者がチームを組んで組織的に諸課題に対応するとともに、保護者や地域の力を学校運営に生かしていくことが必要である。」と述べています。

本号では、専門性を必要とする指導困難な学習に、地域住民が補助役として参画し、学習効果を高めている高森小学校を紹介します。

4年 算数学習「そろばん」

※ 周東町の小学校6校の合同学習<4年>として実施

高森小(44名)、修成小(2名)、米川小(7名)、そお小(5名)、川上小(3名)、周北小(1名)

【実施までの流れ】

- ① 教職員から意見を聞いて、校長が依頼
- ② 地域住民への呼びかけ・連絡調整 …依頼を受けた地域学校協働活動推進員(河林さん)
- ③ 当日の駐車場の世話 …事務主事 事前説明 …学年主任, 地域学校協働活動推進員
- ④ 11名の地域住民が3クラスに分かれて補助(子供は1クラス約20名)

呼びかけに快く応じていただきありがとうございます。気楽に、できる範囲でお手伝いをして下さい。

<地域学校協働活動推進員 河林さん>

そろばん学習は、経験の少ない子がたくさんいます。個別に声かけをお願いします。<学年主任>

なるほど。そういうことか。よくわかったぞ。<子供>

今日、お世話になる皆さんに自己紹介させていただきます。名前を覚えて下さいね。<学級担任>

黒板を見てごらん。もう少しできそうだよ。

<地域住民>

そうそう、いいね。ここは〇〇だね。<地域住民>

そろばんは、自分自身も使いません。指導はとても難しく、とても困ってました。最初は、地域の人に少し遠慮もありましたが、子供は喜んでいました。お願いして本当によかったです。助かりました。<学級担任>

担任の先生の指導や指示を真剣に聞いて、わかりやすく子供に橋渡しをしておられる姿が印象的でした。学校だけでは抱えきれない課題を地域の方と一緒に解消していくことは、地域連携教育の大きな魅力です。家庭と学校と地域が、弱みを出し合うことが必要です。

